

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991800259		
法人名	(株)ビジュアルビジョン		
事業所名	けあビジョンホーム笛吹		
所在地	山梨県笛吹市八代町米倉803-1		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 28 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 5 年 3 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境と地域の方々との交流の下で、入浴、排せつ、食事等の介護、その他の日常生活の世話および生活機能訓練を行うことにより、お客様が、その有する能力に応じ、「安心」と「尊厳」のある生活を営むことができるようになります</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所されて2,3年、ちょうどコロナ禍のため、思うような地域との交流を行うことができていません。理念にある、利用者に心から満足頂ける介護サービスを目指していました。押しつけない介護や支援を目標に、利用者に事故がない安全な生活と共に、自分のペースで望む生活が送れるよう心がけていました。事業所は健康管理に力を入れ看護師の配置を行い、健康な毎日が送れ、張り合いと楽しみが持てるよう支援されていました。コロナ禍ですが、収束してからの支援を今後どのようにやっていくか検討し、計画されていました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

けあビジョンホーム笛吹

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を掲示し、朝礼夕礼で事業部の理念を唱和し、職員全体で理念の共有を図っている。	会社の理念を掲示し、朝礼夕礼で事業部の理念を唱和し、職員全体で理念の共有を図っている。	法人理念の、利用者に心から満足いただける介護を基に、認知症の方に専門的ケアを提供したいと、事業所では朝礼や夕礼で話し合われていました。毎日の支援を行う中、うわさや陰口を禁止し誠意をもって支援されていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや避難訓練等に参加したいことを区長さんに伝えているが、コロナ禍にてなかなか地域とのつながりがとれていない	地域のお祭りや避難訓練等に参加したいことを区長さんに伝えているが、コロナ禍にてなかなか地域とのつながりがとれていない	開所時から地域との交流計画を立てていましたが、コロナ禍の為実施できていません。感染収束時には、ボランティア活動の受け入れや駐車場が広いため納涼祭などを計画し、地域の方との交流を希望されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方向けの内覧会などを計画しているが、コロナ禍にてなかなか地域とのつながりがとれていない	地域の方向けの内覧会などを計画しているが、コロナ禍にてなかなか地域とのつながりがとれていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて書面開催になっている。	コロナ禍にて書面開催になっている。	運営委員のメンバーには、家族・利用者、施設関係者、地域の区長さんなどの参加で開催されていましたが、コロナ禍の感染予防のため書面にて、事業所の活動や行事報告、利用者の様子、事故報告、活動予定報告を行っていました。開所時期がコロナ禍のため来所していただくことがなく、意見を頂いていませんでした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には何かあったときに連絡し、確認しているが、日頃からの連携・協力体制はとれていない。	市町村担当者には何かあったときに連絡し、確認しているが、日頃からの連携・協力体制はとれていない。	運営委員会等から事業所の報告はされていました。市からは検査キットなど支給されていました。地域の感染状況の様子はわかりましたが、事業所では感染を抑えることができ、特に報告は行いませんでした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の場で身体拘束について行っている新しい職員には入社日に研修を行っている	職員会議の場で身体拘束について行っている新しい職員には入社日に研修を行っている	法人、事業所にも委員会があり、日々の介護で拘束を行っていないか検討されていました。特に慣れすぎてスピーチロックを行っていないか、転倒の可能性が高い方の日常生活をどうしたらいいか、拘束しないで安全をどう守っていけるか検討されていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で身体拘束について年に2回研修を実施しているほか、新入職員に入社時に研修を実施している。	職員研修で身体拘束について年に2回研修を実施しているほか、新入職員に入社時に研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護、虐待防止について職員研修を実施している。成年後見制度については詳しく行っていない状況。	高齢者の権利擁護、虐待防止について職員研修を実施している。成年後見制度については詳しく行っていない状況。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に料金や入居してからの生活についての説明を行っている。また、契約時には解約・退去について必ず説明し、他にも面会や外泊についての説明も実施している。	見学時に料金や入居してからの生活についての説明を行っている。また、契約時には解約・退去について必ず説明し、他にも面会や外泊についての説明も実施している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

けあビジョンホーム笛吹

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族のご意見をうかがっていたが、現在コロナ禍で運営推進会議が書面開催になっている為機会を設けているとは言えない状況である。	運営推進会議にてご家族のご意見をうかがっていたが、現在コロナ禍で運営推進会議が書面開催になっている為機会を設けているとは言えない状況である。	月1回、利用者の様子は家族に報告されていますが、来所していただくことが出来なかったため、要望等はいただけませんでした。家族との関わりは電話や手紙で行っていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と月に1回面談を行い意見などを聞く機会を設けている。また、職員会議でも意見を検討する機会を設けている。	職員と月に1回面談を行い意見などを聞く機会を設けている。また、職員会議でも意見を検討する機会を設けている。	シフトの中で日動り一時的な役割を作り、介護や支援がうまく活用される様、要望が出され実施しています。食材の発注にも分担を決め、職員が役割として張り合いになる様改善されていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が前向きに働ける様、月1回の面談時に要望を聞くようにしている。また、そのほかの機会でも話ができれば聞くようにしている。外部研修の案内があれば全体に周知している。	職員が前向きに働ける様、月1回の面談時に要望を聞くようにしている。また、そのほかの機会でも話ができれば聞くようにしている。外部研修の案内があれば全体に周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員研修を行い、感染症や身体拘束防止、事故防止、法令順守などの内容を研修し、職員の知識の向上に努めている。また、外部研修の案内があれば全体に周知している。	毎月職員研修を行い、感染症や身体拘束防止、事故防止、法令順守などの内容を研修し、職員の知識の向上に努めている。また、外部研修の案内があれば全体に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在同業者と交流する機会をほとんど持っていない状況。	現在同業者と交流する機会をほとんど持っていない状況。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能なら本人と面談し、現在の状況など把握し、どんなことに介助が必要なのか、何を望んでいるのかの把握につとめている。	入居前に可能なら本人と面談し、現在の状況など把握し、どんなことに介助が必要なのか、何を望んでいるのかの把握につとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時、契約時にご家族から現在の状況、何に困っているのか、入居を希望する理由などが、またホームでの生活を具体的に説明し、不安が解消できるよう努めている。	見学時、契約時にご家族から現在の状況、何に困っているのか、入居を希望する理由などが、またホームでの生活を具体的に説明し、不安が解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用を含めた案内までは出来ていない。	他のサービス利用を含めた案内までは出来ていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を楽しんでいる	職員がすべてを行うのではなく、一緒に掃除や洗濯干しなど行えるよう声掛けし、ただ介護を受けるだけではなく、役割を持っていただけるよう支援している。	職員がすべてを行うのではなく、一緒に掃除や洗濯干しなど行えるよう声掛けし、ただ介護を受けるだけではなく、役割を持っていただけるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

けあビジョンホーム笛吹

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればご家族に連絡、相談、依頼し、ご本人の生活を共に支えていけるようにしている。	何かあればご家族に連絡、相談、依頼し、ご本人の生活を共に支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来であれば面会や外出も自由のため、友人と会う事も可能であるが、コロナ禍のため面会は出来ていない。電話の支援や、手紙を出すことはしている。	本来であれば面会や外出も自由のため、友人と会う事も可能であるが、コロナ禍のため面会は出来ていない。電話の支援や、手紙を出すことはしている。	開所して2、3年、コロナ禍になってしまい、地域の馴染みの方や場所の関係はできていません。家族とはテレビ電話や手紙で交流していました。コロナ収束後には地域との交流や家族との関わりをどんな形で行うか検討されていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな方が輪に入れるよう職員が間に入って声掛けしているが、無理に仲良くしてもらうようなことはやっていない。	孤立しがちな方が輪に入れるよう職員が間に入って声掛けしているが、無理に仲良くしてもらうようなことはやっていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了し、退去した方はいるが、ご家族から何か相談を受けたことは無い。	サービス終了し、退去した方はいるが、ご家族から何か相談を受けたことは無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の聞き取りのほか、家族や職員から普段の状況を聞き、何かしら要望がないか、また今の生活で不便がないかを検討している。	入居時の聞き取りのほか、家族や職員から普段の状況を聞き、何かしら要望がないか、また今の生活で不便がないかを検討している。	入所時に本人・家族から今までの生活の様子の聞き取りを行い、押し付け過ぎないように、いやな気持ちを持たないように寄り添い、探っていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に施設やケアマネジャーからの聞き取り、ご家族からの聞き取りなど、状況把握に努めている。	入居前に施設やケアマネジャーからの聞き取り、ご家族からの聞き取りなど、状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の生活について、「○○しませんか？」など声掛けし、何が出来るのか、気の合う方がいるか等状況把握に努めている。	入居後の生活について、「○○しませんか？」など声掛けし、何が出来るのか、気の合う方がいるか等状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身状況の変化や介護方法の変化に合わせて、ご家族、職員から情報収集し、本人の要望や状況に即した介護計画を冊化するよう努めている。	心身状況の変化や介護方法の変化に合わせて、ご家族、職員から情報収集し、本人の要望や状況に即した介護計画を冊化するよう努めている。	毎日の様子は月ごとに家族に報告されていました。職員は日々の様子を業務日誌や連絡ノートを活用し共有されていました。介護計画には往診時の医師の意見や看護師の健康管理の様子が反映されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、事故報告書、ヒヤリハット、業務日報、連絡ノート、朝礼、夕礼の申し送りなど、職員間の情報共有を実践し、介護方法の変更やケアプラン見直しに努めている。	個別の介護記録、事故報告書、ヒヤリハット、業務日報、連絡ノート、朝礼、夕礼の申し送りなど、職員間の情報共有を実践し、介護方法の変更やケアプラン見直しに努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

けあビジョンホーム笛吹

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何か特別な要望が出たことは無く、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいるとは言えない。	何か特別な要望が出たことは無く、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいるとは言えない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しているとはまだ言えず、生かし切れていない。	地域資源を把握しているとはまだ言えず、生かし切れていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と連携し、何か不安な事があった際は相談し、指示を頂くようにしている。	往診医と連携し、何か不安な事があった際は相談し、指示を頂くようにしている。	入所時に今後の医療支援体制や通院について確認ができていました。協力医の往診で対応される方には、看護師を中心に毎日の健康状態や食事摂取状況の報告が行われていました。家族が付き添いの通院には、生活の様子を家族や医師に伝えられ、特別な時は職員の同行も行ってました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師がいるため、不安な事があったらすぐに相談し、指示を貰うほか、医師との連携もやってもらっている。	常勤看護師がいるため、不安な事があったらすぐに相談し、指示を貰うほか、医師との連携もやってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供を実施しているほか、退院時は情報収集し、スムーズな退院につなげられるよう努めているほか、必要なら送迎も行っている。	入院時の情報提供を実施しているほか、退院時は情報収集し、スムーズな退院につなげられるよう努めているほか、必要なら送迎も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期の対応について説明するほか、ご家族の意向をうかがっている。また、終末期に近づいた際、改めて医師、ご家族と話し合い、方針の確認、対応の確認等している。	契約時に重度化した場合や終末期の対応について説明するほか、ご家族の意向をうかがっている。また、終末期に近づいた際、改めて医師、ご家族と話し合い、方針の確認、対応の確認等している。	重度化や終末期の対応は入所時に確認し、グループホームでできる範囲の看取りに対応されていました。終末期に訪問看護や協力医で対応していましたが、事業所の看護師で対応が行える体制ができていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で定期的な事故防止について行っているほか、入社時に事故防止マニュアル、対応マニュアルを渡している。また、事故が起きた際の連絡先や対応方法を壁に掲示し、だれでも対応できるようにしている。	職員研修で定期的な事故防止について行っているほか、入社時に事故防止マニュアル、対応マニュアルを渡している。また、事故が起きた際の連絡先や対応方法を壁に掲示し、だれでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しているが、地域との協力体制は取れているとは言えない。	避難訓練を定期的実施しているが、地域との協力体制は取れているとは言えない。	ハザードマップでは問題になっていませんが、非常時に備え、定期的な避難訓練実施や地域との協力を計画されていました。重要事項説明書には自衛消防団や非常食の備蓄の記載があり、災害対策に努め、利用者の安全安心に取り組んでいました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に接遇についてのマニュアルで研修しているほか、職員研修でもプライバシー保持について研修している。また、職員会議でも重ねて接遇について発信している。	入社時に接遇についてのマニュアルで研修しているほか、職員研修でもプライバシー保持について研修している。また、職員会議でも重ねて接遇について発信している。	個々を尊重し関わることを心がけており、愛称でなくお名前呼び、敬語で接していました。接遇にはマニュアルが作成され、職員にわかりやすい統一した関わりができていました。介護では同姓介護を心がけていますが、職員の比率や夜勤では難しさがありました。入所時に同姓介護でないことも了解を得られていました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

けあビジョンホーム笛吹

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側がすべて決定するのではなく、命に関ること以外ではなるべく本人の希望に沿うような支援に努めている。	職員側がすべて決定するのではなく、命に関ること以外ではなるべく本人の希望に沿うような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	無理にレクリエーションやお茶の時間に参加して頂くことなく、部屋で過ごしたい方は部屋で過ごしていただき、夜もテレビを観ていた方はそとしておくなど、本人の希望やペースを優先して支援している。	無理にレクリエーションやお茶の時間に参加して頂くことなく、部屋で過ごしたい方は部屋で過ごしていただき、夜もテレビを観ていた方はそとしておくなど、本人の希望やペースを優先して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など、本人と一緒に着替えを選ぶなどしているが、こだわりの見られない方が多い。	入浴時など、本人と一緒に着替えを選ぶなどしているが、こだわりの見られない方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食材を切ったり、ホットプレートで混ぜて頂くなどしているほか、食器を拭いて頂くなど、出来る限りの家事をやっていたり、食べる事への関心をもっていただくようにしている。	可能な方には食材を切ったり、ホットプレートで混ぜて頂くなどしているほか、食器を拭いて頂くなど、出来る限りの家事をやっていたり、食べる事への関心をもっていただくようにしている。	食事は、利用者が出来ることは一緒にやりながら、事業所で作られていました。皆の希望を取り入れ、誕生会食や行事食を楽しまれました。食事形態の対応も個々に合った食事になっていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立に沿って調理しているほか、本人の食事形態に合わせた提供をしている。また、希望があった場合は量を多めに提供している。	栄養バランスを考慮した献立に沿って調理しているほか、本人の食事形態に合わせた提供をしている。また、希望があった場合は量を多めに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアをして頂けるよう声掛けするとともに、本人の能力に合わせて準備や支援等行っている。	毎食後必ず口腔ケアをして頂けるよう声掛けするとともに、本人の能力に合わせて準備や支援等行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのトイレ誘導、Pトイレの導入など実施しているが、全員に排泄の自立に向けた支援が出来ているとは言えない。	定時でのトイレ誘導、Pトイレの導入など実施しているが、全員に排泄の自立に向けた支援が出来ているとは言えない。	排泄の自立に力を入れており、まだ改善には繋がっていませんが低下はしていません。気持ちの良い排便のために水分調整や牛乳、ヨーグルトなどを活用されました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と協力し、排泄の記録を付け、水分を多めにとって頂くなどの工夫をしている。	看護師と協力し、排泄の記録を付け、水分を多めにとって頂くなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴の実施という事で、入浴日は決まっているが、本人が入りたくないと言った場合は曜日をずらしなど対応している。時間帯も午後にはずらすなどしているが、夕方や夜間はやりたいという希望には対応できていない。	週2回以上の入浴の実施という事で、入浴日は決まっているが、本人が入りたくないと言った場合は曜日をずらしなど対応している。時間帯も午後にはずらすなどしているが、夕方や夜間はやりたいという希望には対応できていない。	楽しみにされている入浴は、本人の希望に沿って週2回利用できていました。リフト浴の設備もあり、立位の不安定な方も安心して入浴ができていました。シフトの関係で同姓介護ができないときは本人了解を取り、拒否の時は日にちをずらしていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調の調節のほか、あまり遅くまでテレビを観ている方には消灯をお願いするなどし、静かに眠れるよう支援している。	空調の調節のほか、あまり遅くまでテレビを観ている方には消灯をお願いするなどし、静かに眠れるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

けあビジョンホーム笛吹

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が用法や副作用を理解しているとは言えないが、服薬支援は名前を職員2名で確認、本人にも服薬前に名前を確認し、誤薬が無いようにしている。	職員全員が用法や副作用を理解しているとは言えないが、服薬支援は名前を職員2名で確認、本人にも服薬前に名前を確認し、誤薬が無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農家だった方には畑の世話や散歩など、こちらから声掛けし、身体を動かしていただくようにしているほか、盆栽を家から持って来て世話して頂くなどしている。	農家だった方には畑の世話や散歩など、こちらから声掛けし、身体を動かしていただくようにしているほか、盆栽を家から持って来て世話して頂くなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にすべて添えるわけではないが、駐車場や近隣を散歩できるときは支援している。季節ごとにドライブを実施しているが、地域の方と協力して、という体制は無い。	その日の希望にすべて添えるわけではないが、駐車場や近隣を散歩できるときは支援している。季節ごとにドライブを実施しているが、地域の方と協力して、という体制は無い。	コロナ禍で思うような外出はできていませんが、外気浴に心がけ、駐車場の散歩や感染に注意しながらのドライブ、桃の花見を楽しませていました。コロナ収束後には積極的な外出を検討されていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族が希望すれば本人が金銭を居室に持ち込むことは可能だが、現在そうしている方はおらず、すべてホームが金銭管理をしている。	本人や家族が希望すれば本人が金銭を居室に持ち込むことは可能だが、現在そうしている方はおらず、すべてホームが金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があればご家族や友人に電話をかけ、話していただくほか、手紙を出してもらいたいと希望があれば出している。	本人から希望があればご家族や友人に電話をかけ、話していただくほか、手紙を出してもらいたいと希望があれば出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りを作成し、掲示しているほか、共用部分に不要なものを置かないようにしている。	季節ごとの壁飾りを作成し、掲示しているほか、共用部分に不要なものを置かないようにしている。	ユニットは1階と2階になっていますが、行事は一緒に行われていました。交流を希望される方には職員が同行していました。各階の共有スペースには利用者の作品や季節の花、緑の植物、季節行事が展示されていました。利用者の安全にも配慮され余計なものは置かないように注意されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで自席で過ごすほか、ソファが用意されており、少し離れて過ごしたい方はそちらで過ごしていただいている。	テーブルで自席で過ごすほか、ソファが用意されており、少し離れて過ごしたい方はそちらで過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはクローゼットはあるが、自分で使っていた家具類は持込自由になっており、タンスや机など持ち込んでいる方は持ち込んでいる。	居室内にはクローゼットはあるが、自分で使っていた家具類は持込自由になっており、タンスや机など持ち込んでいる方は持ち込んでいる。	今までの生活を大切に継続したいと、使っていたテレビやアレクサ、仏壇、写真、趣味で行っていた盆栽を持ってこられ、毎日の楽しみにされている方もいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるよう大きく「トイレ」と掲示し、迷わないようにしているほか、自室が分からない方のドアには大きく名前を張り出すなどしている。	トイレの場所がわかるよう大きく「トイレ」と掲示し、迷わないようにしているほか、自室が分からない方のドアには大きく名前を張り出すなどしている。		